

# PAM通信 コラム

2010年6月発行

## 第39回 タイトル：おいしいごはん

今回のコラムは、前々回に引き続き PAM でヘルパーとして働く N さんから  
の投稿です。文章と添えられた短歌から N さんの感性を堪能して下さい。

屋久島に行ってきた。ひと月に 35 日雨が降る、と言われるだけあって滞在  
のほとんどの日が雨だったが、島を目指し海上から吹き寄せる雲から新鮮な大  
粒の雨がきらきらと輝きながら降り注ぐ光景は、東京の果て（町田）で、でろ  
りと生きている私には身に沁みた。雨の後にいたずらのように島のあちこちに  
現れる虹を酒屋に焼酎を買いに行く途中に見つけるとなんとなくいい気分にな  
ったりした。滞在したのは少し風変わりな自炊の宿で、夜になると自然に台所  
に人が集まりテーブルを囲んでごはんを食べたり、酒を呑んだり、音楽を聴い  
たりして過ごした。この宿の旅人はみんな感じが良く、会話もくだらないこと  
からアカデミックな話までそれぞれの人生経験の広がりや深さを感じさせてま  
ったく退屈することがなく、持参した文庫本はとうとう旅の終わりまで開く機  
会がなかった。

宿には長期滞在している女性がいた。彼女は料理が得意でみんな頼っている  
んだ、と宿の主人が語っていたが本当に上手な人で、私も多少は料理をするの  
で、その人が上手い下手かは台所での立ち居振る舞いを見れば分かるつもりだ  
が、彼女は冷蔵庫の食材たちと相談しながら、無駄無く手際良く、途中で他の  
客の差し入れて来た魚や野菜も取り混ぜながら、みんながお腹を空かせた頃に  
色とりどりの料理をテーブルに並べた。ちなみに料理の手練れを無闇に手伝っ  
てはいけない。リズムを邪魔して有難迷惑なだけである。隙を見て皿などを洗  
い、流しを片付けてテーブルでさりげなくビールを呑みながら待つのが正解で  
ある。

料理の上手な人は大勢いる。でも私には彼女の料理がとても食べやすく、美  
味いと感じた。それは旅先で見知らぬ人達と語り合いつつ食べた高揚感も理由

だろう。でも私は空気みたいに軽く、相手が知られぬように気遣う心が彼女にあるからだと思った。彼女は初めて会った人と少し話すだけで雰囲気を感じ取り、その日のメンバーの希望をさりげなく入れた食事を作った。彼女にとって料理とは相手を喜ばせるための最強の方法なのだ。彼女は何のために自分が料理を作るのか、その理由がよく分かっているのだ。彼女は無口で無駄な言葉は使わない人だったが、作る料理はどれも食べる人の心に向いていた。だから食べる人が自然と微笑むのだろう。

料理とは上下関係で成り立つものではない。作る人と食べる人がいて初めて出来上がる。どちらが欠けても料理は永久に完成しない。食べる人は食べることで自分が調理に参加することと同じことなのだ。彼女にとって料理とは言葉を必要としない会話だったのかもしれない。

夜中に余った炊き込みご飯を翌朝のためにおにぎりにしている彼女の楽しい表情を、酔った頭でぼんやりと眺めていた心地よさを私は今でもときおり懐かしく思う。(ヘルパーN)

## ピータンが好きな女になっていた 前妻もいる赤い円卓 藤島秀憲歌集「二丁目通信」

如何でしたか？私は彼女の作る料理がとても食べてみたくなりました。そして、Nさんの言う「料理を作る人と食べる人」の関係は、「ヘルパーと利用者」の関係に似ているのではないかと思いました。それは、そのどちらも“相手をさりげなく気遣いあい、そのことが自らも心地よく感じられる”そんな関係が理想だと思えること、そして“どちらが欠けても永久に完成しない”という点においてです。Nさんの文章から感じた料理と介助の類似点は、私にはとても新鮮な発見に感じられました。

Nさんの感性をあなたにはどのように感じられましたか？PAMの関係者には魅力的な感性を持ち、それを表現したいと思っている人がまだまだいるはずです。そんな人は事務局Tまでご連絡を！（T）